

温泉の保護と利用に関する懇談会の開催 について

平成15年8月29日
環境省自然環境局

1. 趣旨

わが国は世界屈指の温泉国であり、全国各地にある温泉は古来、人々の保健、休養などに大きな役割を果たすとともに、各地の歴史や風土と相まって独自の温泉文化を形成してきた。

近年、国民の温泉志向は依然として高く、温泉利用者の増加が続くなど温泉ブームといえる状況にあり、殊に国立公園など自然の豊かな地域にある温泉については、貴重な観光資源として積極的な活用を求める声がある。一方、一部の温泉地では温泉源の枯渇が深刻な問題となっているほか、国民の健康志向、本物志向も高まる中で、温泉利用施設の衛生管理や適切な情報提供のあり方等について問題提起もなされている。

環境省は、温泉法の施行等を通じ温泉の保護と適正な利用を図っているが、今般、関係各方面の専門家の参加を得て、温泉の保護と利用をめぐる最近の諸問題について討議し、行政上の課題等を整理するため、「温泉の保護と利用に関する懇談会」を開催することとした。

2. 懇談会委員（50音順、敬称略）

市毛 良枝	環境カウンセラー、俳優
大野 英市	(社)日本温泉協会常務副会長
高橋 保	(財)中央温泉研究所副所長
竹村 節子	旅行作家
中村 昭	前神奈川県七沢リハビリテーション病院長
原田 純孝	東京大学社会科学研究所教授
広庭 忠雄	山形県文化環境部環境企画課長
深澤 喜延	山梨県衛生公害研究所研究管理幹
山村 順次	千葉大学教育学部教授
渡辺 修	(財)休暇村協会理事長、中環審・自然公園のあり方検討小委員長
渡辺 政治	大分県生活環境部生活環境課課長補佐